Fons Sapientiae

仙台白百合女子大学図書館報 「フォンス サピエンティエ」

No.18
2018.4.1

Contents

・地域貢献研究センターの身近な活動
・図書館の活用
・新着図書の紹介
・新着DVDの紹介
・推薦図書
・図書館からの報告
・2017年度図書館関係会議・研修会等報告

地域貢献研究センターの身近な活動

2016年度より正式に発足した地域貢献研究センターが、2017年度に図書館に置かれ、ちょうど1年が経ちました。設置の目的は産官民学連携事業の実施や生涯学習の機会等の提供により、地域社会の産業及び文化の進展と人材育成に貢献することですが、2017年度の地域貢献研究センターの活動は、より地域社会に密着した内容となってきたと言えるでしょう。その具体的な活動内容を少し紹介させていただきます。

(1)『ゆりっこ広場』(人間発達学科)

人間発達学科が子育て支援活動として 2017 年度より始めた企画で、子育て中の方々がお友達を見つけたり、育児情報を交換したり、子育てに関する悩みを分かち合ったりする場を提供し、子育て中のお母さん達が子育てをより楽しめるような活動を行っております。例えば 2017 年度後期の『ゆりっこ広場』は、次のような活動(企画)が行われました。

場所:仙台白百合女子大学 2 号館 2 階　特別教室Ⅲ、
時間:10 時～ 11 時 30 分

9/29(金)　「小さな秋み～つけた」
10/13(金)　「冬に向けた感染症予防」
11/10(金)　「幼児の食と健康」
12/ 8(金)　「楽しいクリスマス」
1/12(金)　「子どもの笑顔が教えてくれること」
2/ 9(金)　「寝る子は育つ!～子どもの睡眠の重要性について～」
3/ 9(金)　「お耳をすまそう」

(2)『白百合カフェ』(心理福祉学科)

『白百合カフェ』は、地域住民の交流の場・相談の場・知識を得る場となることを目的として、心理福祉学科が社会福祉法人仙台白百合会との共同企画で始めたものです。開催は1月を除く奇数月で、会場は仙台白百合女子大学のステラマリス、時間は10時から11時30分です。ミニ講話と茶話会からなり、例えば2017年度後期の『白百合カフェ』では、次のようなミニ講話が行われました。

9/22(金)　「巷の健康食品」
11/25(土)　「適度な運動で介護予防」
3/10(土)　「聖書に学ぶ人生肯定法」

3/10(土)は2017年度最後ということで、ミニ講話のほかに『白百合カフェ』のスタッフ学生として1年間活躍してきた4人の卒業する学生からのメッセージも参加者に届けられました。

(3)『体育館テニス(白百合テニス)』(健康栄養学科)

50歳以上の地域の住民を対象に、年に20回程度、主に日曜日の午前中に体育館でダブルスのゲームを行う企画で、地域住民の健康維持のための運動の場とコミュニケーションの場を提供することを目的として健康栄養学科がはじめたものです。10月には『第1回仙台白百合杯 泉区オープンテニストーナメントダブルス』の大会(10/1(日))を開催し、参加した皆さんから高評を得ております。

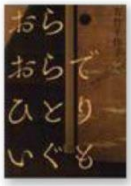
(1)『ゆりっこ広場』は2018年度も月に1回の割合で開催する予定であり、(2)『白百合カフェ』は1月を除く隔月に開催する予定です。(3)『体育館テニス(白百合テニス)』は年に20回程度の開催予定で、大会は年に2回開催する予定です。地域貢献研究センターのHPをご覧になって、是非ご参加いただきますようお願いいたします。

図書館の活用

新入生の皆さんはご入学おめでとうございます。図書館は、本の貸出しをはじめ、資料・論文の検索、新聞・雑誌の閲覧、視聴覚資料の鑑賞・学習などができ、皆さんの大学での学習から研究までを広くサポートできる機能をもっています。資格取得のために必要な参考書・問題集なども取り揃えておりますので、自習の場としても是非ご活用ください。また読みたい本などのリクエストにもお応えし購入いたしますので、ご遠慮なくお申し付けください。図書館の利用回数の多い学生には、図書館グッズのプレゼントがありますよ。

新着図書の紹介

『おらおらでひとりいぐも』　若竹 千佐子 著　河出書房新社



作者の若竹千佐子氏は、55歳の時から小説講座に通いはじめて、執筆に8年をついやした本作によって、63歳で第158回（2017年下半期）直木賞、第54回（2017年）文藝賞を受賞しました。この物語の主人公の桃子さんは、東北出身で、東京オリンピックの年に上京し、二人の子どもを産み育て、主婦として家族のために生きてきましたが、若い頃夫に先立たれ、子どもとも疎遠になり「おひとりさまの老後」を送っています。「どうすっぺぇ、この先ひとりで何如（なんじょ）にすべがぁ」と堰を切ったように身内から湧き上がる東北弁丸出しの声を聞きながらひとりお茶を啜っている場面からはじまるこの物語において、捨てた故郷、疎遠な息子と娘、そして亡き夫への愛、震えるような悲しみの果てに、主人公が辿り着いた、圧倒的自由と賑やかな孤独とは何だったのでしょう。「ひとの心は一筋縄ではいがねのす」。個人の自由や自立に伴う重いものや辛いものを受け止めて、新たな老いの境地を描いた感動作です。

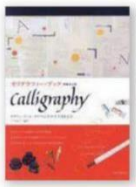
『キツネのパックス：愛をさがして』　サラ・ペニーパッカー 作　ジョン・クラッセン 絵　評論社

元気いっぱいで友達思いの女の子が活躍する絵本『クレメンタイン』シリーズで知られる、アメリカの児童書作家サラ・ペニーパッカーによる、2016年全米で絶賛されたベストセラー小説です。

主人公ピーターは死かけていた子ギツネを助けます。それ以来、パックスと名づけられた子ギツネとピーターは、ずっといっしょに生きてきました。しかし、ピーターが戦争で疎開することになって、パックスは森の中に置き去りにされてしまいます。けれど、強い絆でむすばれたピーターとパックスは、お互いに再会するために戦火の中を旅します。彼らの旅を描き、運命に立ち向かうことの大切さを教える感動的な物語となっています。

この小説は『Pax』として映画化されることになり、『アデライン、100年目の恋』などを手がけたシドニー・キンメル・エンターテイメントが映画化権を獲得し、現在制作中のようです。映像で見られる日が来ることを心待ちにしたい、そんな物語です。

『カリグラフィー・ブック：デザイン・アート・クラフトに生かす手書き文字』　水戸美奈子 著　誠文堂新光社



カリグラフィーとは、美しい線によって作られた美しいアルファベットの表現のことです。ギリシア語のCALLI（美しい）とGRAPHEIN（書くこと）に由来しています。もともとはクイル（羽ペン）が主な道具でしたが、それが金属のペンに代わり、筆も使われるようになりました。近年では様々な画材や道具を使い、表現の幅も格段に広がっています。現在、カリグラフィーは新しいアート表現のひとつとして、価値の高いクラフトや工芸として、また、書体デザインには欠かせない知識として、その必要度と価値は飛躍的に高まっています。

この本は、アメリカでカリグラフィーに出会った著者が、欧米で学んだ経験に基づいてまとめたもので、カリグラフィーについて基礎から応用までを収録してあり、各書体のコンセプトを理解してステップアップしながら、自分だけの美しい文字を書くための決定版教則本の増補改訂版となっています。

新着DVDの紹介

『あん』

あることがキッカケで刑務所暮しを経験し、どら焼き屋「どら春」の雇われ店長として単調な日々を送っていた千太郎と、その店の常連である近所の中学生のワカナ。二人の前にある日、求人募集の貼り紙を見て店で働くことを懇願する老女、徳江が現れます。どら焼きの粒あんを任された彼女が作る粒あんの美味しさが評判を呼んで店は繁盛していくのですが、徳江がかつてハンセン病を患っていたという噂が流れたことで客足が遠のいてしまい、千太郎は徳江を辞めさせなければならなくなります。徳江はおとなしく店を去りますが、彼女のことが気にかかる千太郎は、徳江と心を通わせていたワカナとともに、徳江の足跡をたどります。「私達はこの世を見るために、聞くために、生まれてきた。この世は、ただそれだけを望んでいた。…だとすれば、何かになれなくても、私達には生きる意味があるのよ。」徳江の言葉が胸に沁み込む、深い余韻の残る作品となっています。

『美女と野獣』

魔女に呪いをかけられ、醜い野獣の姿に変えられてしまった王子。魔女が残していった1輪のバラの花びらがすべて散るまでに「真実の愛」を見つけなければ、永遠に人間に戻れなくなってしまいます。希望をなくし失意の日々を送っていた野獣と城の住人たちの前に、美しい町娘ベルが現れます。自分の価値観を信じて生きるベルは、恐ろしい野獣の姿にもひるまず、彼の持つ本当の優しさに気づいていきます。名作ディズニーアニメ『美女と野獣』を、『ハリー・ポッター』シリーズのエマ・ワトソン主演で実写映画化した作品です。『ドリームガールズ』のビル・コンドンがメガホンをとり、呪いで野獣の姿に変えられた王子と美しく聡明なヒロインのベルが惹かれ合っていく姿を描いています。王子役をテレビシリーズ『ダウントン・アビー』のダン・スティーブンス、町一番のハンサム男ガストン役を『ホビット』シリーズのルーク・エバンスがそれぞれ演じているなど、俳優陣も豪華なものとなっています。

『主体的学び・対話的学び・深い学びへのアプローチ　全4巻』

映像教材を扱っている『ビデオトーン・ビデオライブラリー』の中で『教育・保育のエピソード』シリーズは、教育・保育の現場での子どもたちと保育者の遊び、学び、関わりのエピソードを、じっくり観察できるように作られています。

この『主体的学び・対話的学び・深い学びへのアプローチシリーズ　全4巻』では、神奈川県横浜市の「四季の森幼稚園」での教育・保育、主に自由遊びの時間における様々なエピソードを紹介しています。園の先生が撮影した貴重な場面も含まれていますし、撮影時に園に来ていた実習生との関わりも見ることができます。これらの場面から、幼稚園教育要領などで示されている、「主体的・対話的で深い学び」について考えていくことができます。ＤＶＤメニューから「副音声解説ON」を選ぶと、監修者によるコメントが入り、エピソードから読み取れる要素のヒントを知ることができます。教育・保育の中のひとつの場面を解説の有無を任意に選択の上、通して視聴することができ、様々な用途の学習に活用できます。

推薦図書

『瓦礫の中から言葉を　わたしの〈死者〉へ』 辺見 庸 著　NHK出版新書

人間発達学科　准教授　**大迫 章史**

辺見庸はジャーナリスト出身の作家である。彼は宮城県石巻市出身であり、本書は彼の故郷を襲った3.11の経験（東日本大震災）とは何であったのかを「言葉」から問うていこうとした著作である。震災時、マスメディアによって語られた震災へのさまざまな言葉は数値を中心とした計量的思考であって、奈落を奈落として語っておらず、人をモノ化していると彼はみる。そして「言葉」で語ろうとしないこうした過剰な自己抑制は表現上のデキレースであって、「ファシズム」ともいえる状況をもたらしていると辺見は指摘する。この国における、こうした「言葉」の危うさを3.11の経験は露呈したのである。

こうしたなかで、「言葉」が最も人の心の奥深くまで届くのは「個」と「個」が話をするときであり、こうした形で3.11をとらえなければならないと述べる。辺見は堀田善衛の「人間存在の根源的な無責任さ」の「言葉」に希望を得て、「われわれ」ではなく「わたし」という「個」が3.11における被災者と向き合うことの重要性に気づくに至る。本書は、今の日本の「言葉」をめぐる状況のなかで、「わたし」という人間が「言葉」をとおして、3.11の経験をいかに受け止めるべきかを改めて考えさせられる一書となっている。

『ラグビー日本代表を変えた『心の鍛え方』』 荒木 香織 著　講談社α新書

心理福祉学科　教授　**白川　充**

「スポーツ心理学を学ぶことによって
最高のパフォーマンスを」

面白い本を見つけました。正月の新聞に荒木香織さんが紹介されていたので、彼女の著書を読んでみました。その本が、荒木香織（2016）「ラグビー日本代表を変えた『心の鍛え方』」（講談社α新書）です。私の関心はラグビー日本ではなく、メンタルコーチ、スポーツ心理学にありました。なぜかと言えば、このところ学生時代にやったテニスを再び始めて、スポーツの面白さと難しさを感じていたからです。

荒木香織さんの専門はスポーツ心理学です。そして彼女は2012年から2015年までラグビー日本代表のメンタルコーチを務めました。本の中で印象に残ったことを、ひとつだけ挙げると、最高のパフォーマンスは「ある程度の興奮度合いと少し高めの不安を持ち合わせているときに発揮できる」（47頁）とのこと（そうか、平常心ではダメなのか……）。

なるほどと思いながら読んでいるうちに、これでテニスが上手くなるというより、案外、日々の生活の中で使えるように思えてきました。ゼミの発表や就活において最高のパフォーマンスを目指す学生の皆さんに、一読を薦めたい本です。

『読んでいない本について堂々と語る方法』 ピエール バイヤール 著　ちくま学芸文庫

健康栄養学科　特任教授　**河原 克雅**

私は、40年あまり大学人として過ごしてきたが、今もなお他人の書いた文章を読むのが苦手である。何を言いたいのか（何が書かれているのか）は、著者とタイトルを見ればわかるし、実際読んでも、タイトル以上の内容を得ることがない。そういう信条ではあるが、書店の書棚で本書のタイトルを見たとき、「これは買って読まなければ」と騙されてしまった。著者は、フランスの大学教授（文学部）で長年多くの書評をしたためており、「半分以上は著作物を読まないで評論している」と豪語している。自分の審美眼に自信を持ち、常にup-to-dateされた人物評価データベースをお持ちのようで、「読まないで書いた書評はいつも的を射ており、そこそこ評判がいい」と自画自賛。レポート提出のために多くの課題図書を読まなければならない学生諸氏には羨ましい話だが、そうなるまでには多くの本を読んで自分のコンパス（羅針盤）と物差しを作らなければならないことに気づいて欲しい。

『それでも人生にイエスと言う』 V.E.フランクル著　春秋社

グローバル・スタディーズ学科　准教授　**加藤 美紀**

「人生を変えた一冊」

昨年マスコミを賑わした某議員の父親が娘の再起を願って「よい読書をし、深い思索をして、気力を取り戻してほしい」と語る記事を読みました。ちょうど私も、これとは状況は異なりますが、人生の方向転換を余儀なくされた時期にすっかり意気消沈していたのを見かねた姉から「こんなときは一人静かに歯ごたえのある良書を読むにかぎる」と勧められたことがあります。期待せずにふらりと訪ねた近所の本屋さんで目にとまった平積みのハードカバーの本。著者の精神科医フランクルには、大学時代にその代表作『夜と霧』を読んでなじみがありました。手に取って読むと、講演録なのでまるでこの私に切々と語りかけてくるような迫力があります。いつしかふつふつと気力がよみがえるのを覚えました。人生にはご縁のある本があるようです。奇しくもその十数年後には博士論文でフランクルの思想と格闘することになりました。これはまさに私の人生を変えた一冊です。

図書館からの報告

報　告

(1) 紙芝居

2017年10月29日(日)、大学祭での図書館企画として、昨年に続き「仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会」による紙芝居の上演を行いました。「仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会」では、仙台のひとや歴史、民話、名産物など次世代に伝えていきたいことを題材とした紙芝居を企画制作し、仙台の町の個性を多くの人に知っていただくため、様々な機会や場所において上演等の活動を行っています。

紙芝居

お菓子のつかみ取り

今年は、紙芝居に先立って図書館2階のベランダから「もちまき」を行なう予定でしたが、台風の影響による雨で図書館内での「もちまき」となりました。紙芝居も急遽図書館内で行なうことになり、「仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会」の5名の皆さんに「もりのみやこのチンチンでんしゃ　市電くん」「ばんじばんざぶろう」など7作品を上演していただき、“おもしろかった”“声が通り大変聞きやすかった”といった感想をいただきました。紙芝居の後には駄菓子のつかみ取りを行い、小さな手でたくさんのお菓子をつかみ取るお子さんもいて、大いに盛り上がっていました。今後も機会がありましたら、上演を行ないたいと思いますので、皆様のご参加をお待ちしております。

(2) 図書検索ミステリーツアー

2017年10月28日(土)、白百合祭における図書館の企画として恒例の図書検索ミステリーツアーが今年も行われました。78組のグループが参加され、129人の方が参加賞を受け取られました。昨年度のアンケートでいただいた“時間をもう少し長くして欲しい”“もう少し手ごたえのある問題を”といった声に応えて、それまで午前と午後に分けて行なっていたツアーを今年は11時～15時(受付終了は14時30分)としました。問題数を昨年より多くして、AコースとBコースに分けましたが、問題が少し難しくなりすぎたようで、全問正解者が少ない結果となりました。アンケートの感想でも“楽しかったけど難しかった”という声が多くありました。また、問題は図書館スタッフが事前に検証を行ない出題していますが、参加者にとってわかりにくい点があったようで、来年度は、この反省を生かして新たな問題を作成していきますので、また皆様にご参加いただけることを楽しみにしています。

図書検索ミステリーツアー

(3) データベース講習会

図書館で導入しているデータベースを紹介するデータベース講習会は、「ジャパン・ナレッジ　Lib」という知識系の統合的なデータベースについて配給元の株式会社ネットアドバンス・ビジネスセンター・ゼネラルマネージャー代理の武智則之氏を講師に、7月3日(月)の1校時と2校時目に約80名が参加して行われました。「ジャパン・ナレッジ　Lib」は約50種類の辞書・百科事典・叢書等をまとめて検索できるデータベースです。基本的操作及び演習的な操作、ジャパン・ナレッジを活かしたレポートの作成について資料に基づいて要点の解説があり、学生は、説明を受けて実際にコンピュータ上で検索したり、便利な機能を確認したり、また、課題を与えられてそれについて調べるといった作業を通して、楽しみながら講習を受けていた様子でした。

データベース講習会

2017年度図書館関係会議・研修会等報告

本学図書館は、日本カトリック大学連盟図書館協議会及び東北地区大学図書館協議会に所属していて、大学図書館間相互の連携によって利用者への利便性を図っています。

日本カトリック大学連盟図書館協議会は、全国18校のカトリック大学の図書館で構成されており、加盟館の発展や情報交換・相互協力を目指しています。2017年度の総会及び実務研究会は、上智大学において2017年6月16日(金)に開催されました。総会では、承合事項として、ラーニングコモンズの現状、書庫狭隘化対策、延滞者への督促方法および罰則、図書館の広報活動、図書館予算の構成及び学科予算との関係性等について各館の状況を確認し合いました。

上智大学図書館閲覧スペース

また、実務研究会では、上智大学中央図書館1階のラーニングコモンズで、講師の「アクティブ・ラーニング」についての解説を聞きながら、グループごとのディスカッションが行われました。

情報交換会も含め、カトリック大学図書館の連携を深める上で大変有意義な集まりとなっています。

東北地区大学図書館協議会は、東北地区の国立大学15館、公立大学12館、私立大学37館の計64館が加盟する図書館協議会で、こちらも情報交換や職員のスキルアップ、相互協力を図っています。2017年度の総会は当番館の秋田公立美術大学により、秋田市にぎわい交流館ＡＵを会場に、2017年9月22日(金)に行われました。総会では、加盟館により運営されている部会の改選について意見が出され、大学教育部会の休止と研修部会の再開についての検討が行われました。

東北地区大学図書館協議会総会

総会後の講演会では「研究推進と大学図書館―知の循環・創造を加速させる図書館・研究者のかかわり方―」と題して、京都大学で研究者とURA(University Research Administrator)での研究推進支援の経験を持つ静岡大学情報学部行動情報学科講師の山本裕輔氏より、URAと図書館が共同で行った研究推進支援の3つの取組を例に挙げ、図書館に期待される役割が旧来の資料保存から研究推進支援を中心とした知との出会いを演出する場へと大きく変化していることが解説されました。

図書館報バックナンバー　http://sslibrary.sendai-shirayuri.ac.jp/

Fons Sapientiae 仙台白百合女子大学図書館報　No 18　2018年4月1日発行　仙台白百合女子大学 図書委員会　〒981-3107 仙台市泉区本田町6-1
tel 022-374-5090　fax 022-374-4577　e-mail: library@sendai-shiray　uri.ac.jp